

豪州における米海兵隊MV-22オスプレイの事故を踏まえた 陸上自衛隊V-22オスプレイの安全対策の方向性について【概要】

1. 豪州における事故について

(1) 事故の概要

- 平成29年8月5日、豪州で普天間飛行場の米オスプレイが、ドック型輸送揚陸艦への着艦中に船体と衝突して海に落下。

(2) 事故の原因

- 事故原因は、米オスプレイ自体の吹きおろし（ダウンウォッシュ）が、船体に当たって跳ね返り、米オスプレイのローター（回転翼）に戻ってきたことによるもの。
- こうした状況は、機体の重さ、風速の低さ、甲板の低さなどの要因が重なったことにより発生した可能性がある。
- オスプレイの機体自体に問題はなく、全ての運用マニュアルの手順と制限に従っており、パイロットや搭乗員にも任務上の問題はなかった。

(3) 米海兵隊の再発防止策

- 米オスプレイの運用マニュアルを更新し、今回の事故が発生した状況下でのドック型輸送揚陸艦への着艦に関する手順を追加した。
- 全てのパイロットに教育済みである。

2. 陸自オスプレイの安全対策の方向性

【今般の事故の分析と重視すべき対策】米軍の再発防止策を参考に陸自オスプレイの発着艦に関するマニュアル類を整備

【安全対策2】有明海においては発着艦訓練を実施せず

【安全対策3】発着艦に関する資格制度の確立

【安全対策4】発着艦以外の基本操縦を十分修得の上、発着艦訓練は段階的に実施

【安全対策5】安全管理を確実にする教育訓練の実施

【安全対策6】陸自オスプレイの搭乗員同士の連携要領および陸自オスプレイと海自艦艇の連携要領の確立

【安全対策7】発着艦を行う地点における海上風や波浪情報の入手の徹底

【安全対策8】整備員・搭乗員による飛行前後の点検の徹底

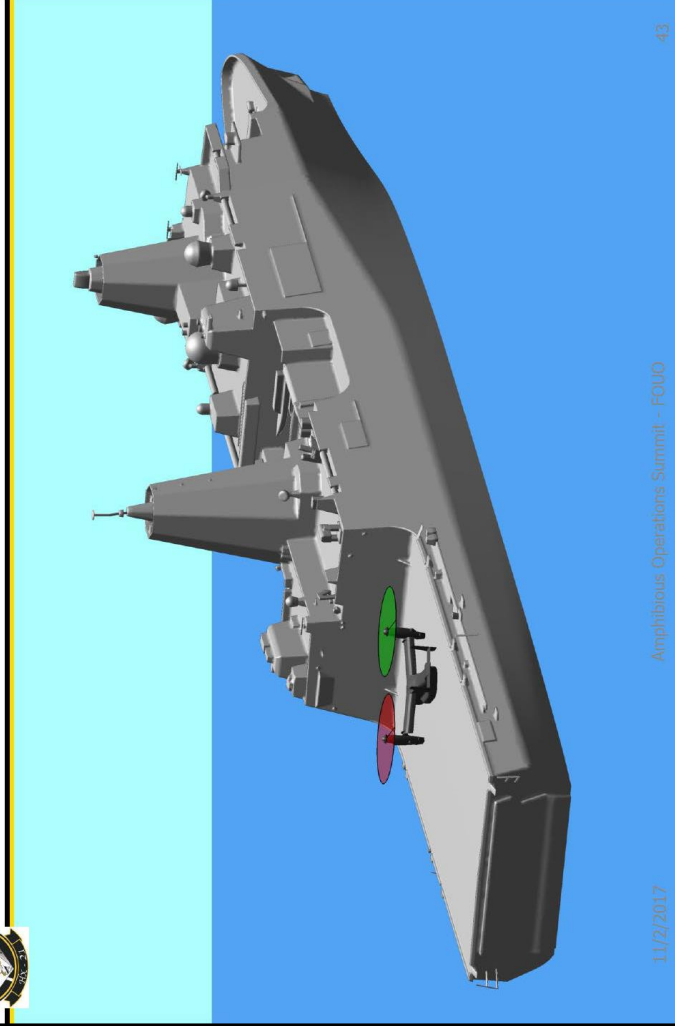
豪州における米海兵隊MV-22オスプレイの着艦中の事故について

事故調査報告書：

- 公表：平成30年5月
- 同報告書及び米側の説明によれば、本件事故の原因は、着艦の際にオスプレイ自体の吹きおろし（ダウンウォッシュ）が、輸送揚陸艦の船体に当たって跳ね返り、オスプレイのローター（回転翼）に戻ってきたことによるとされている。
- こうした状況は、機体の重さ、機体の重さ、風速の低さ、甲板の低さなどの要因が重なったことにより発生した可能性がある。
- オスプレイの機体自体に問題はなく、すべての運用マニュアルの手順と制限に従っており、パイロットや搭乗員にも任務上の問題はなかった。



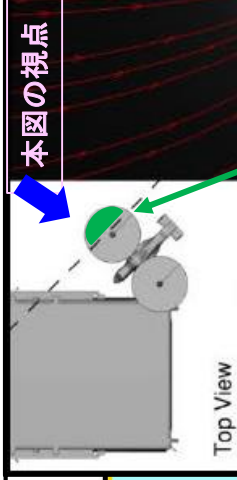
CFD Model Geometry



11/2/2017

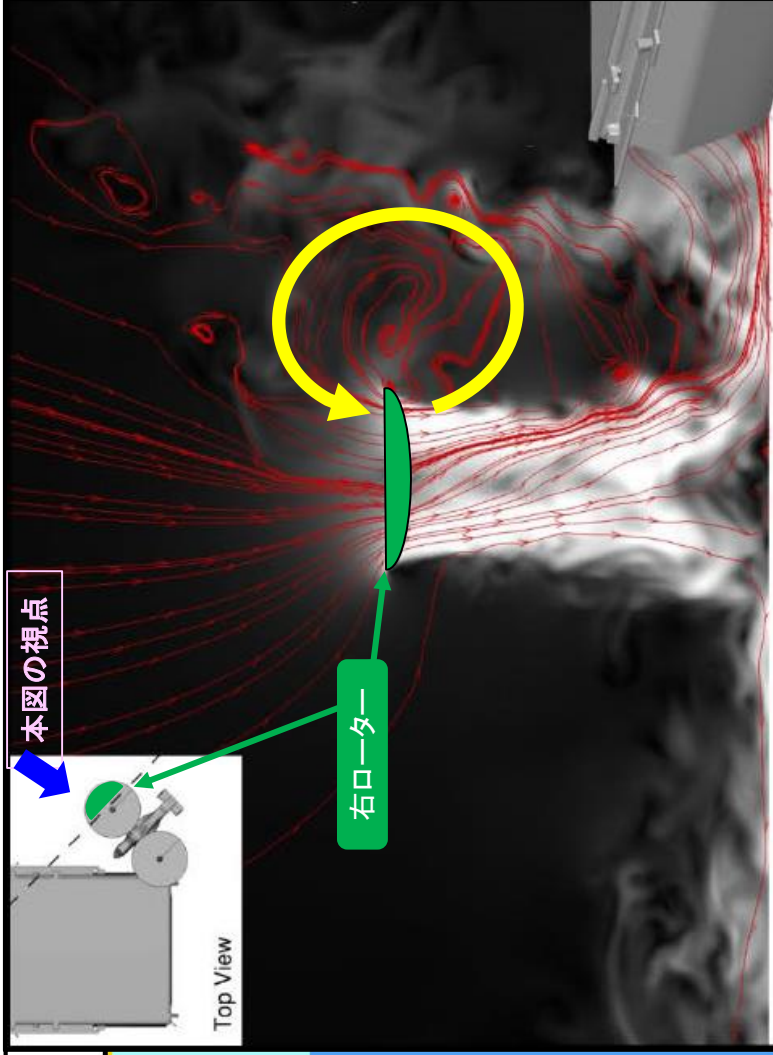
Amphibious Operations Summit - EOJ0

43



本図の視点

右ローター



事故発生時の位置関係のイメージ（艦船の右後方から進入）

右ローター付近で再循環する吹きおろしのイメージ
（米のシミュレーション結果に、防衛省が黄矢印等を加筆）

出典：事故調査報告書添付資料